

平成 24 年度

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500064		
法人名	アントレーヴ株式会社		
事業所名	iK介護グループホームスマイル		
所在地	〒025-0314 岩手県花巻市二枚橋第5地割360番地1		
自己評価作成日	平成 24年7月30日	評価結果市町村受理日	平成 24年 12月 28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/03/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&liyosyoCd=0390500064-00&PrefCd=03&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人いわての保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0021 岩手県盛岡市中央通三丁目7番30号
訪問調査日	平成24年9月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- 1 地域交流→毎月のスマイルにっこりデーと8月のスマイル祭りで施設の開放をしております。
・併設しているデイサービス利用者との合同誕生会をしております。
・花巻看護専門学校実習の受け入れをしております。
・地区の祭りでは子供神輿が来てくださいます。また保育園、幼稚園、地域のボランティアによる慰問があります。
- 2 2人夜勤体制や毎月の避難訓練、心肺蘇生法の訓練などを実施し安全で安心な生活を提供しております。
- 3 タクティールケアで認知症緩和ケアに取り組んでおります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者の支援に随所に工夫の跡が見られ県内でも屈指の特徴を持つホームと思われる。その特徴として①理念は現在のものが作られてから大幅な見直しはないものの、当ホームでは理念の狙いを細分化し職員がチェック表を用いて振り返る機会を設定していること。②通常よりも多い職員配置によって、看護師も含む夜勤の2名体制を実現し、夜勤者の精神的ストレスを大幅に緩和しているほか、重度化による家族の不安の除去にも努めていること③利用者の「思いや意向の把握」にADLのみならずCADLまで取り込むなど様々な工夫が見られること。他にも運営推進会議に他グループホームを招いたり、近所のコンビニに防災の協力を依頼したりと、多くの試み実践されている。その意欲的な取り組みの背景には理念を共有し大事にしている姿勢があると思われ、「いつか宝物を得られると思ってがんばっている」という職員の言葉から、理念が職員個々の信念にまで昇華している印象も受ける。今後も方向性をしっかり共有し、既成概念に囚われることなく、地域密着支援のフロンティアとしての発展を期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

事業所名 : iK介護グループホームスマイル

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を掲示し、毎朝唱和して理念を共有・実践できるように心がけております。理念について学習を行い意味を深めました。	理念は、当初、職員のブレインストーミングで策定した。理念は事業所の羅針盤であるとして、毎朝朝会で唱和するとともに、年に1回、理念に沿った生活支援のあるべき姿と照らし合わせ自己チェックし、理念の共有と実践に繋げている。	理念の自己チェックは生活支援の11の観点から振り返るなど具体的な意識化にむけての工夫がされており、アントレーヴ(夢の入り口)という社名とあわせて職員の意識を後押しするものとなっている。今後も職員の原動力となるよう理念を大切にしていってほしい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月15日をつっこりデーと称して地域の方や家族が利用者やレクリエーションやオヤツを共にする機会を作っております。町内の祭り際には、子供神輿に施設へ立ち寄りいただき、施設を知っていただく機会を作っております。幼稚園や保育園の園児の訪問で楽しく交流を行っております。地元のクリーニング屋を利用し、便宜を図っていただいております。地区の文化祭に利用者の作品を出品しております。	地域の自治会に加入し、地域の一員として広報の配布などを行っており、親交の深い店には行事案内などを掲示させてもらっている。保育園や幼稚園とも訪問交流をしているほか、絵や工作などの作品交流をしている施設も複数ある。また年1回夏に開催するスマイル祭りは地域に定着してきており、今年も160名ほどの参加者があったほか、利用者と地域とのつながりが継続できるように、毎月15日をつっこりデーと定めて事業所を開放し、地域住民や家族に来所を呼びかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事の時、介護相談・介護用品展示コーナーを設けております。また地域団体等の施設見学時、認知症の人たちを理解していただけるように説明などをしております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族等の出席で2ヵ月に1回開催しております。市役所や消防署、他のグループホームの方を招き貴重な意見をいただいております。	運営推進会議では、利用者の状況や支援の実際等の話題の他にテーマごとに市役所担当課長や消防署、警察署職員等を招いている。また他のグループホーム職員にも参加を得て、お互いの取り組みを紹介しあったり、申込者の紹介などにつながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	平成24年6月に運営推進会議に出席していただき、事業所の実情や取り組みを伝えております。また、課長さんより花巻市高齢者福祉の取り組みについて、ご講義いただいております。	介護報酬の改定に伴う報酬の積算の仕方や解釈等について市役所とは頻りに連絡を取り合っており、ホームの状況も伝えている。また、年に1回運営推進会議の場で行政説明を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	設立当初からこの施設では研修の下に身体拘束はしないという管理者・職員一致の意見でケアをしております。センサーマットの使用と玄関に鈴を取り付け自由な出入りを見守る対応をしております。	職員室で毎日「いかなる差別も虐待も行いません」と唱和するとともに、自己チェック表で月1回振り返りを行っている。また、使ってはいけない言葉をまとめ、職員間で言葉が出た時には暗号で「10円」と指摘しあい改善につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	設立当初より虐待防止について学び、倫理を朝夕に唱和し倫理に基づいて援助していけば虐待はないと考えます。また、利用者に絶対言うべきではない言葉を朝夕に確認し合って一日を振り返っております。倫理綱領チェック表を用いて毎日、自己チェックを行っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今の入居中の利用者様は皆家族がおられるので現在対象となる方はおられません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に十分時間をかけて説明し、利用者家族にできるだけ納得していただけるようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族へのアンケートを基に意見を受けとめ、また面会の折に家族の気持ちや意見を聴くようにしております。利用者の気持ちや状態把握にお好みリストを用いて日常生活に生かしております。意見箱を設置しております。第3者委員を設置して、利用者の意見を聴いていただいております	利用者の気持ちを受け止めるため、お好みリストを「にっこり」「いやなこと」に分け支援に役立てている。また利用者・家族へのアンケートの他、以前民生委員だった人や現任の方を第3者委員にお願いし、利用者への意見聞き取りを行うなかで年3回スマイル委員会を開催し意見をいただいている。さらに、写真を使って利用者の好みを調べるなど多様なツールを用いて利用者の意向を把握しようとしている。	利用者や家族の意見を複数の方法で得ようと様々な工夫を重ねているのは、利用者本位の姿勢としてすばらしい。利用者側は事業所に対して常に一定の遠慮や意見の言いづらさがあることを念頭におきながら、今後も率直な意見を得るためにいろいろな手法を試みていってみたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送りや業務改善会議、管理者との面談を通じて意見や提案を聴いて業務に反映させております。行事時の人員数を増員することで、検討いたしました。	管理者と職員の間では何でも話し合える雰囲気があり、仕事面での気づきはメモ等で集約し、業務改善会議で検討している。最近は重度者が多い中で行事にどう参加してもらうかが話題となり、行事の職員体制強化が議論されている。	職員間の話し合いは利用者へのサービス向上の観点からなされており、その意義は大きい。現在課題となっている行事の実施体制については、毎年多数受け入れられている看護実習生や看護学校に協力を依頼してみるのも一考である。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員はグループホームの仕事にやりがいを持っており、また管理者は働きやすい職場環境を作ることに努めております。資格修得者に資格手当が給与されております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	講習会・研修会があれば積極的に参加してもらっております。それを施設内で発表してもらい、知識の共有を図っております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の同業者と交換研修をして意見交換をしております。スマイル祭りでは、他のグループホームを招待し、交流しております。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ多くの情報を取り入れたうえで本人と面接し出来るだけ早く馴染みになれる様にしてあります。また事前に施設を見ていただき慣れ親しんでいただけるように配慮しております。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に施設を見ていただき家族の意向に沿える環境か判断していただいております。また家族の心配や要望を十分に聴くようにしております。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思いや要望を十分聴きそれをケアプランに生かしております。本人や家族の不安を早く解消できるように、また信頼関係を築けるように配慮しております。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に家事やゲームをしたりテレビを見たりして家族同様の生活ができるように努力しております。ただし馴れ合いにならないようにしております。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の気持ちや思いを理解した上で面会外出などの機会を多く持つてもらえるようにしております。行事への参加の機会を持っていただきながら本人と家族の絆を大切にしております。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅などの外出外泊の機会を作ってもらえるようにしております。面会に来てくれた知人の方にはまた来ていただけるようお願いしております。併設のデイサービスとの交流も大切にして馴染みを深めております。	ホーム近郊の地区から入居した利用者には隣近所の方が多く訪問している。また、併設されているデイサービス利用者とは誕生会や幼稚園児との交流も合同で行う等、関係づくりも含めて利用者にとっての交流が途切れないような支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が良い関係を築けるように座席の配慮や職員が間を取り持つようにしております。また利用者同士が共に仕事やレクリエーションが楽しみ合える様に見守り、寄り添っております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院で契約が終了してもお見舞いに行き様子を見たりしております。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お好みリストを活用して本人の意向等の把握に努めてアセスメントのツールとしております。また、申し送りの情報共有で一人ひとりの思いや、希望の把握に努めております。	お好みリストの情報とともにADL、IADLに加えCADL(文化的日常生活動作)を加え日常生活ができるかどうかといった身体的動作の他、「孫と〇〇してみたい」といった文化的欲求までも取り込んで利用者の意向の把握を行っている。		CADLという観点で利用者それぞれの生活上および生き方の価値観を探索していくことは、日々の瑞々しい生活を創り上げていく重要な視点となっていくはずである。今後も一人ひとりの価値観を大切にしたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や趣味・特技などを事前調査や面会時に情報を得るようにして馴染みのものを居室に置くなど日常生活に活かすようにしております。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員同士の情報交換を密にし、バイタルチェック・排泄状況など利用者本人の状況を総合的に把握するようにしております。またできないことよりできることに視点をしております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの見直しは職員全員が目を通し、その意見を基に、また家族からの情報も反映できるようにしてケアプランを作成しております。	お好みリスト、家族からの情報、CADL等のアセスメントなどを総合的に勘案し、ケアプランを作成している。モニタリングはサービス内容に沿って日々行っている他、その結果を1日の暮らしがみえる個人新聞として家族に配布している。		プランの内容と、その結果としての日々の暮らしがきちんと関連しているかという検証は重要であり、その点で個人新聞の取り組みは斬新である。今後も日々の暮らしに表れるプラン作りを継続してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録やお好みリストの記入や、職員間で情報を共有しプランの見直しに活かしております。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が宿泊を希望される時など状況に応じて援助を行っております。また施設内外の研修などを通して支援、サービスに取り組んでおります。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方ボランティア団体の方の訪問を受け入れて活用しております、火災避難訓練では消防職員からの指導を受けております。花巻消防署からAEDトレーナー・リトルアンを借り、心肺蘇生法の訓練を行っております。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急の場合を除き、かかりつけ医への受診は家族対応をお願いしております。受診の際は健康状態の情報を提供、受診後の結果を家族から報告を受けております。	かかりつけ医は利用者それぞれで、全体で9か所の医療機関となっており、定期的な受診は、家族にお願いしている。ホームでの生活の状況を家族に話し、かかりつけ医の指導を家族から聴取し支援に役立てている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員・看護職員はお互いに情報を共有しながら利用者の異常に早く気が付き受診に繋げております。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院について利用者が安心して治療できるように病院関係者と情報交換や相談しながら行っております。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての指針が出ております。まだ該当する利用者おりません。今のところ契約時に本人家族への説明に留まっておりますが職員の勉強会はおこなっております。	看取りの指針はできており入居時に家族に説明している。職員での勉強会は、「苦痛の緩和」などのテーマで続けている。一部利用者の開業医は看取りへの協力も得られる見込みであり、地域との関係者とともに支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署より用具を借りてきて心肺蘇生法やAEDを研修しております。また急変時に備え連絡網を作成しております。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災の通報訓練や初期消火・避難訓練をしております。消防署立ち合いのもと母体であるアントレーヴ、ディサービスと連携を図り、また民生委員の協力を得て避難訓練を行っております。	毎年消防署の指導を受けながら法人本部、デイサービスとともに避難訓練や器具の操作訓練を実施している。また夜勤は2人体制であることに加えて、災害時に近くのコンビニが深夜でも協力を約束してくれ、地域との協力体制を築いている。	大手コンビニエンスストアから夜間の協力が得られるというのは県内では数少ない例であり、法人や事業所の地域における信頼感がうかがえる。今後連絡手段や役割分担など、具体的な検討も進めていきたい。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心を傷つけないような支援に努めており ます。また絶対利用者には使用してはい けない言葉のマニュアルの基に、朝夕チェ ックし合っております。個人記録は書庫に保 管管理、メモ類も裏返して個人情報の取り扱 いに注意を払っております。	利用者のプライドに配慮して失禁してもさり げない言葉で誘導し対応している。言葉のマ ニュアルに基づき、不適切な言葉があったと ときには「10円」という暗号を伝えながら、職員 同士でチェックし合っている。また、個人情報 は書庫に施錠し保管している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、 自己決定できるように働きかけている	出来るだけ利用者のそばに寄り添って利用 者の気持ちや希望を引き出せるように心が けております。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	娯楽・レクリエーションへ無理に参加させる事 がないように利用者一人一人の思いをキャ ッチできるように心がけております。利用者 の出来ることを見つけてグループホームで の役割を持ってもらえるようにしてござい ます。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができる ように支援している	本人・家族の希望する理容・美容店でおこ なっております。希望者にはホーム内で理 容をしております。毎朝の髭剃り、女性は外 出時に口紅をしておしゃれができるように また、衣類はいつも清潔にし、希望する衣 類を着用するようにしております。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員が一 緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ利用者・職員と一緒に食事の準 備片付けをやるように心がけております。ま た刻み食、粥食などの食事も準備するなど して個々の状態に合わせて、またBGMなど を流しゆったりとした雰囲気の中で楽しく 食事ができるように努めております。	利用者の中で手伝いの役割分担ができて おり、職員とともに協力しあいながら食 事を楽しんでいる。職員の中には3人の 調理師の資格者もあり、行事食での「ち らし寿司」や「お好み弁当」などでも支 援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとりの 状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食事前には口腔体操を行い、食事の ときには各テーブルに職員も入り皆の 摂取状態が分かるようにして食事量・ 水分量を把握しております。定期的に 体重測定をして利用者の健康には気を 付けております。食欲低下時には主治 医に相談して、エンシュを併用して おります。一度に食事を摂れない方 には時間帯をずらしたりしております。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、個々の状態に合わせて歯 磨き・うがい・入れ歯洗浄の声掛け・ みまもり・介助を行い口腔の清潔に 努めております。状況に応じて子供 歯磨き粉を使用しております。また 週2回、コップ、歯ブラシの消毒乾 燥をして清潔保持にも努めてござい ます。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録や排泄チェック表で排泄パターンを把握して、できるだけトイレ誘導をしています。便秘がちの方もおり体調が整えられるよう下剤使用を含め支援しております。	利用者の方の多くが介護度4、5でありオムツを使いながらもトイレ誘導を行っている。また、右麻痺、左麻痺別に手すりを設置したトイレを設置し、排せつの自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の内容・水分の摂取量や活動等を通して体調を整えるようにしております。なお便秘がちの利用者にはかかりつけ医の指示を仰ぎ、薬、浣腸を使用しております。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者全員が介助か見守りの必要な方なので自由に入浴できる状況でないため、その方に合わせ時間帯を午前と午後に分けて支援させてもらっております。浴室の入り口に入浴マークの入ったのれんを下げたり、音楽を流したりして楽しく入浴していただけるように工夫しております。また入浴のなかった利用者には足湯を行っております。	現在の利用者の健康状態や疲労などを考慮しながら、入浴は週に2～3回の頻度で促し、午前と午後に分けて入浴支援を行っている。体調不良で全身浴はできない利用者には、足湯を行って支援している。また、音楽を流したり、芳香剤を利用して入浴を楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを整え日中の活動を促しております。利用者の生活パターンに合わせて状況に応じて昼寝をしていただいたりと支援しております。冬季には湯たんぽを準備して安眠できるようにしております。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者本人の薬がよく確認して、また飲んでしまうまで見届けております。薬の変更や追加があれば、連絡ノートや引継ぎ時に、薬効や副作用などを報告し職員皆に知らせております。また使用している薬の勉強会も実施しております。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫、家事などその方に合った役割を持ち過ごしております。天候の良い日には皆でポーチに出て、嗜好品を取り入れながら会話や歌など気分転換の支援をしています。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者のほとんどは移動時の介助・見守りが必要な方々なので自由に外出は難しいです。そのような中でもお花見やピクニック、外食などの外出支援に取り組んでおります。出来るだけドライブ、散歩の支援をしております。また、庭の花壇や裏の畑に出て楽しんでおります。	重度の利用者が多く、自立的に外出できる人は少ないが、職員付き添いで天気の良い日はホームの周りや近くの公園に出かけている。花の季節などは努めて外に出ようとピクニックやお花見、ドライブなどの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居の時から現金を所持している方はおりませんでした。スマイル祭りの機会に合わせて買い物支援を行っております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話ができるように対応しております。スマイル便り(年2回)やお誕生日便りを発行し、お誕生日の月に利用者様とご家族様に日頃の様子をまとめた個人新聞を作成しプレゼントしています。また、年賀状の支援もしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天井が高く窓は半円形の大きなガラス張り、写真や利用者の作品を展示して、季節感や柔らかな雰囲気を作るようにしております。ホールからは車の往来が見えたり、出窓からは花壇の花や、猫が歩くのを見て喜ばれたり刺激もあります。	太い梁と天窓から差し込む光、広々としたホールに写真や利用者の作品が飾られ、さらに、調理する音や煮物の美味しそうな香りが満ち、生活感あふれる環境となっている。また近所の猫がやってくると、玄関スペースで餌をやりながら触れ合う場面も利用者の楽しみとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの空間を広くとっており、その中に4つのテーブルを配置しソファを置いております。そこで自由に雑談をして過ごしております。また広い和室もあり、そこで横になり過ごしたりしております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の馴染みの品、思いでの品(ぬいぐるみ、鏡台、写真、花等)を持ってきていただき、利用者の部屋作りをしていただくように家族にお願いしております。居室で家族とゆっくりできるように配慮しております。	利用者が日常慣れ親しんだ家具が置かれ、壁には実習生が書いた書道の作品が展示してある。冷蔵庫の中には冷酒が保存しているなど、在宅と変わらない生活が営めるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーや手すりの設置をしており、状態に応じて車椅子を使用できるようにして安全には気を付けております。居室の入口には名前を表示したりトイレや風呂場も分かり易く表示しております。		